

續藤栗毛三編

上

13  
3124  
5





へ13 特  
3124  
5



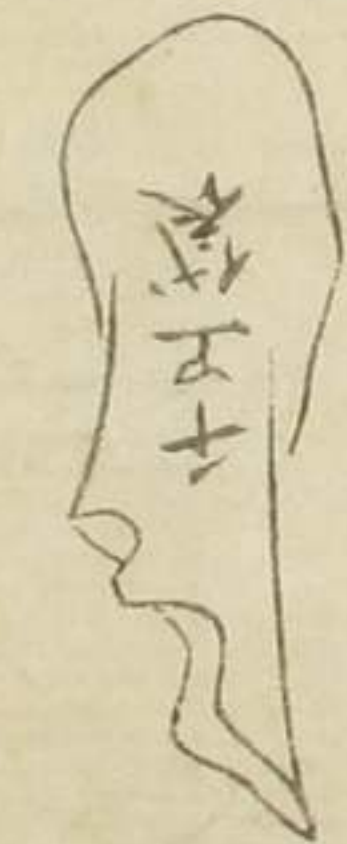
木曾 街道 續 膝栗毛 三編 叙



秘ひぎぎ 西本毛さいほんけ の 楽屋がくや を 取のぞ ぐけ だ



酒さけ なな ろろ バ 智ち 恵え へへ ちち らら ば



版えん 元もと ぶぶ らら のの 毎まい 日ひち 雑雑 談談 して



ちち むむ ちち らら のの 登登 壇壇 して





はきり

鳴呼



茶ちやなるまの神維昔より化

壬申のふし

あつり乃ひよる長ま反齒の親仁  
やうの化をさほくま



木曾 續藤栗毛三編上巻

東都 十返舎一九著

笑ひの中ふ又を研とひひらと昔のまゆり  
れさるれる清代のありがさる。一腰の服指さる。抜ぬ  
やうふとほ免さうひ。生碎ゆ奉性送り。はさる。おぬれを  
せられ。性来のを食辨りのふあふ。まきひゆる。  
大道よあげおさうらて。うの。舞く世の中。千早振  
神代うら。つひ。人。身。比。借。由。小豆。餅。ふ。か。て。上。れ。バ。



























五片舎  
半九



乃 乃 乃 乃 乃  
坂 母 乃

























































骨継ほねつぎの療治りょうぢはことごとくあるやん「骨ほねのおぼし  
のへま方かたと継つぎ合せあひとさく入いまて。焼やくつげ  
やせうり医「そまゝの焼や継つぎのころでござらん。浪戸せとおと  
人間にんげんとらうひまを「ア、人の骨ほねのむきこのも  
つげまほろ孫医「つげるともく「あんなうみう  
合あひまがらう孫医「ハテちうんい徳とく授じゆの。継つぎ木きとさると  
あつりて。柿かきの木の基もと。梅うめでも梅うめをも切き口くちと  
合せとちうりうとちうりうとあつりてあつと。自然しぜんとつげ

道理道理でござる。「ハ、継つぎ木きとさるあつ。す時とき候けいが  
あつてあつるあつ。人の怪けがあつらうるあんとさ  
あつらうるあつは孫医のころ。そのころあつ  
あつらうるあつは孫医のころ。そのころあつ  
「イヤ、とよも春はる込こゆせぬ「ハテそとめとよ  
素もと人ひとで。何なにもあつぬとさうとさうな「ナ、  
ちうりうとさうらうのころ。けあ救きう医い者しやめが  
「救きう医いとらう古ふる虫むしなるあつらうるあつ「ハ、



























鼓  
三  
條  
同